東陽病院だより

健康ウォッチング

東陽病院　院長　伊藤　文憲

胃の病気（Ⅰ）

横芝町の皆さん今日は。今回は胃の病気について述べます。胃は「胃袋」といわれるように袋状をしています。胃の働きは、食物を消化液と十分に接触・攪拌して、その消化を助けることです。入り口は噴門部、出口は幽門部と呼ばれ、それぞれ括約筋によって食道への逆流や早期に十二指腸への食物の移動が起こらないようになっています。

胃の内部は胃酸によりPH2前後の酸性の状態であり、さらに消化液のペプシンにより、常に胃の粘膜は攻撃されており、胃壁は防御として粘液を産生しています。この攻撃と防御の微妙なバランスの破綻により胃粘膜に炎症が起こり、浅い傷である「びらん」から深い傷の「潰瘍」が形成されます。

「びらん」は胃粘膜の軽度の炎症、粘膜欠損であり、ストレスや大飲・大食により生じますが、状態の改善により急速に正常化し、痕跡も残りません。しかし、繰り返す場合には炎症が強くなり、深い傷となり「潰瘍」となります。潰瘍は治療により改善しますが、痕跡を残す点が「びらん」と異なります。びらんや胃潰瘍は腹痛や食欲不振を起こしますが、一番の問題点は出血です。胃壁の血管に近い部位では浅い「びらん」でも大量の出血がみられることがあります。

このびらんや胃潰瘍を起こす原因として最近注目されているのはヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）という細菌です。従来、胃の強酸の環境下では細菌は生息できないと考えられていましたが、1979年にオーストラリアのウォーレンによりピロリ菌の生息が報告され、その後の研究によりピロリ菌と胃炎・胃潰瘍との密接な関係が確認され、さらに胃癌の発生との関連も研究されています。ピロリ菌が存在すると潰瘍が難治性になることが判明し、除菌療法が最近では行われ、有効性が確認されつつあります。

胃の検査法について述べます。従来は白いバリウムを飲みながら、医師や放射線技師がX線TVのモニター下に体位変換や圧迫などにより撮影していました。このX線による検査で異常のあった場合には確認として胃の内視鏡検査が行われます。内視鏡は、専門の医師が少なくまた医師の熟練度により苦痛が異なるなどの点で、X線検査に比べて集団検診などでは不向きな点がありますが、精密検査としての有用性は高く、病院では最初から内視鏡で検査が行われています。直視下に病変を観察することが可能であり、必要に応じて組織検査を追加し、正確な診断が可能となっています。さらに、内視鏡は治療のための有効な手技ともなっています。内視鏡下のポリープ切除、止血、粘膜切除、静脈瘤の治療、胆石の除去、胆道のドレナージなどと食道から大腸までの全ての部位に用いられています。

次回は胃潰瘍や胃癌の診断と治療法について述べる予定です。

文芸

俳句

存分に翼広げて子のつばめ　佐瀬　初音
帰燕して静けさ残る軒端かな　浅野　茂子
故郷のぬけ道尽きし青芒　伊藤　敬子
浮子玉に草を宿して秋の水　池田　逸子
胸もとでささやく風の午睡かな　岡田　雅美
初がつお今宵の幸せかみしめて　佐瀬　輝夫
房総に雨上がりけり夏燕　向後　寛
砂浜に足あとのこる夏の果
老若の祭太鼓の音に踊る
夕焼を背にして帰る母の籠
朽塀や凌霄の花いま盛り
古井戸の底より湧きし蝉時雨
沼風は蓮の浮葉に遊びけり
茗荷汁香りのなかにある郷里　鈴木　繁子
梅雨明けて入道雲立つ九十九里浜
風強く吹いて終りぬ盆踊り　若梅あやめ
パラソルの並ぶ渚や賑えり
破る子のなき淋しさや障子貼る

選者　鈴木　草庵

短歌

曲り来し車の光芒に立ちすくむ
用あり急ぐ夜の町道　吉岡　信子
秋冥菊の初花咲けりこを賜びし
友は今病み籠れると聞く　佐瀬　初音
夏祭り笛や太鼓の老人ホーム
物言はぬ媼も手を打ち始む　池田　春江
昏れてゆく刻を待ちゐる蝉の幼虫
地より出できて羽化するらしも　鈴木　やす
葦の葉は羽の光りしとんぼ乗せ
ま昼しづけし秋たけし川　萩原　信一
隣家の庭につくりし池に住み
食用蛙夜な夜な鳴けり　永藤　滋
戦犯の重み解かれし君は今
柩に眠るみ面おだしく　西山満里子
緊張の極みに焼香する女の孫の
美季ちゃんの姿に一瞬なごむ　越川　教子
背を正し一路極楽に歩みゐむ
逝きたる人の面影にたつ　押尾　輝子
窓を打つ雨音今宵聞きをらむ
夫君逝きて一人なる師は　芹川　初子
ご夫君の丹精されし花花の
咲き溢れゐつ逝きたる庭に　宇井　ちい
昼どきに訪ひたる吾を夫君は
食卓の輪に入れくれましき　上総　晴子
桜欄咲けるを亡夫に告げたかり
温室にひとり手入れなしゐつ

選者　斎藤つね子